

「北九州SDGs登録制度」申請書

北九州市長 様

所在地 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-5F

団体名 日本たばこ産業株式会社 北九州支店

代表者 平塚 哲也

「北九州SDGs登録制度」について、関係書類を添付の上、下記のとおり申請します。

団体概要

(ふりがな)	にほんたばこさんぎょうかぶしがいしゃ きたきゅうしゅうしてん	
団体名	日本たばこ産業株式会社 北九州支店	
(ふりがな)	ひらつか てつや	
代表者氏名	平塚 哲也	
所在地	市内事業所	北九州市小倉北区 室町1丁目1-1 リバーウォーク北九州5F
	主たる事業所	東京都港区虎ノ門4-1-1
事業概要	たばこの製造・販売 医薬品の研究・開発 食品加工事業	
企業・NPO法人等の別	企業	
業種（企業のみ）	製造業	
従業員数（企業のみ）	301人以上	
ホームページの有無	有	
ホームページURL	https://www.jti.co.jp/index.html	





















連絡先

担当部署	北九州支店
担当者	井原 弘貴 / 田中 公樹
電話番号	093-583-3681
メールアドレス	hirotaka.ihara@jt.com koki.tanaka@jt.com

提出書類

- ・様式1：SDGs達成に向けた取組状況（チェックシート）
- ・様式2：SDGs達成に向けた宣言書
- ・様式3：地域課題への取組み

SDGs達成に向けた取組状況(チェックシート)

No.	チェック項目	分類	関連する認定・表彰制度 取得していれば「具体的な取組内容」の記載は不要です	関連する主なゴール・ターゲット			具体的な取組内容	最も関連性のある ゴール・ターゲット	最も関連性のある 「北九州市SDGs 未来都市計画」 の指標や取組
1	温室効果ガスの排出を抑制するため、エネルギーの使用状況の把握や使用効率の改善、再生可能エネルギーの利用などに取り組んでいる。	環境 (CO2削減)					2030年までに事業活動由来GHG排出量*2を2015年比32%削減する。 2030年までに、購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量*3を2015年比23%削減する。 特に、葉たばこ関連排出量を40%削減し、パッケージ等の購入資材由来排出量についても削減を進める。 また、各事業所においては、環境管理委員会でエネルギー資源使用料の把握とフィードバックによるエネルギー削減の取組。	ゴール	指標
				7.2	9.4	13.3		ゴール13	環境(1)②
								ターゲット	具体的な取組
				13.3			13.3	環境(2)イ	
2	事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行っている。 3R(リデュース、リユース、リサイクル)を実施するなど、循環型社会の構築に取り組んでいる。	環境 (廃棄物削減)					2019年は東京都内のPloom製品取扱店舗約300店舗にリサイクルボックスを設置し、お客様より使用済みのデバイス(バッテリー)、たばこカプセル、カートリッジを約400キログラム回収。 2020年からは、使用済み加熱式たばこ製品の店頭回収をたばこ業界としての取り組みに拡大し、当社も参加企業の1社として引き続き取り組んでおり、2021年には対象エリアを全国47都道府県に拡大。(福岡県は2020年より)	ゴール	指標
				9.4	12.3、12.5	13.3		ゴール12	環境(2)②
								ターゲット	具体的な取組
							12.5	環境(2)ウ	
3	事業に伴う調達(原材料、部品、資材、サービス、使用する設備や事務用品等)について、環境負荷や人権などに配慮している。	環境・社会 (サプライチェーン管理)					2025年までにすべての葉たばこ調達国において耕作労働規範(ALP)プログラムを導入。 2020年において、直接契約、または葉たばこディーラー経由に関わらず、JTグループに葉たばこを供給する全てのサプライヤーのうち、87%がALP実施状況を報告。 購入数量のうち76%が、ALPプログラムに取り組んでいる農家によって耕作された。	ゴール	指標
				10.2	12.2	13.3		ゴール8	社会(4)③
								ターゲット	具体的な取組
							8.8	社会(4)ウ	
4	商品やサービスの安全性を担保する体制を整備すると共に、品質の向上や新たな技術の開発等に取り組んでいる。	経済・社会 (技術向上)					リスク低減製品カテゴリーにおいてお客様に幅広い選択肢を提供。 2020年時点で、加熱式たばこ6製品、電子たばこ5製品を27カ国で販売。 ヒートフロー技術の採用と国内外の共同開発によるRRP製品(リスク低減たばこ製品)の向上	ゴール	指標
				8.2	9.5	12.5		ゴール3	社会(3)①
								ターゲット	具体的な取組
							3.5	社会(3)ウ	
5	環境に配慮した商品やサービスの開発や、社会課題の解決につながる商品やサービスの提供に取り組んでいる。	環境・経済・社会 (商品開発)					事業におけるプラスチックを含む容器包装材の使用量を削減するとともに、2025年までに88%、2030年までに100%を再使用または再生利用可能な容器包装材にすることを旨とする。また、2025年までにたばこ事業における容器包装材総重量のうち、20%相当のリサイクル材の使用を目指す。	ゴール	指標
				12.2	17.17	13.3		ゴール3	社会(3)①
								ターゲット	具体的な取組
							3.9	社会(3)ウ	
6	長時間労働の防止、テレワーク等の多様な働き方の導入など、良好な労働環境の整備に取り組んでいる。	経済・社会 (労働環境整備)	女性活躍・ワークライフバランス表彰				多様な働き方を受容する組織風土の醸成。 育児や介護などの際には、社員の意志に沿って柔軟に制度活用が可能。 フレックスタイム・テレワークの導入による柔軟な勤務体制を実施。	ゴール	指標
				3.4	5.5	8.8		ゴール8	社会(1)④
								ターゲット	具体的な取組
							8.8	経済(3)イ	
7	年齢、性別、国籍、障害の有無等による不当な差別を防ぐ体制の整備等により、女性活躍など、多様な人材が活躍できる環境の構築に取り組んでいる。	社会 (ジェンダー平等)	女性活躍・ワークライフバランス表彰				性別、性自認、性的指向や年齢、国籍だけではなく、経験・専門性といった異なる背景や価値観などによる違いを受容し、尊重。 JTは、経済産業省が発表した「なでしこ銘柄2020」に選定。	ゴール	指標
				5.5	8.5、8.8	10.2		ゴール8	社会(1)③
								ターゲット	具体的な取組
							8.8	社会(1)イ	
8	セクシャルハラスメントやパワーハラスメント、マタニティハラスメントなど、あらゆるハラスメント行為を防止するための体制を整備するなど、良好な職場環境の構築に取り組んでいる。	社会 (ハラスメント防止)	女性活躍・ワークライフバランス表彰				J社員が人権を尊重し、互いに個性や人格を大切にすることが信頼関係を築き、差別のない職場環境づくりとその維持につながると考え、職場の採用や処遇における公正さの保持はもちろんのこと、人権に対する国際的視点も踏まえて「人権啓発推進基本方針」を策定。 ハラスメントに関する窓口の設置とEラーニングによる定期的な研修の実施。	ゴール	指標
				5.1、5.4	8.8			ゴール8	社会(1)④
								ターゲット	具体的な取組
							8.8	社会(1)イ	
9	疾病予防や早期発見、良好なメンタルヘルスの維持など、従業員の健康維持に取り組んでいる。	社会 (健康経営)					健康支援室を設置。従業員がより健康に働けるよう、定期健康診断、生活習慣病予防健診等の各種健康診断の手配及び実施、健康診断後の健康面談や特定保健指導などの支援、健康支援イベントの実施など、年間の衛生計画に沿って実施。 その他、産業医・保健師による面談指導、メンタルヘルス対応や健康相談なども実施。	ゴール	指標
				3.4	8.8			ゴール3	社会(3)①
								ターゲット	具体的な取組
							3.4	社会(3)ア	
10	全ての従業員にスキルアップのための研修等の機会を提供すると共に、社会に役立つ情報の外部への発信やインターンシップの受け入れなど、社内外にわたる人材の育成に取り組んでいる。	経済・社会 (人材育成)					社員一人ひとりの成長をサポートするための取り組みとして、各種研修の整備や充実・強化を図る。その一つとして、社員に必要なビジネスの基礎的な知識・スキルを獲得するための選択型研修を実施しており、マーケティングや財務・会計の知識、論理的思考力や発想力、コミュニケーション力などを高める講座を多数用意。本研修は、所属部署や職種、年齢などに制限されることなく、すべての社員が受講可能。その他、階層別に必要なスキル・知識を学べる階層型研修に加え、業務に必要な専門性を習得するための各部門独自のプログラムなどがある。	ゴール	指標
				4.4	8.2、8.6	17.17		ゴール8	経済(2)①
								ターゲット	具体的な取組
							8.2	経済(2)ア	
11	反社会的勢力の排除、汚職や贈収賄・不正競争行為の防止など、法令を遵守する体制を整備している。	社会 (不正防止)					関係当局との対話を進め、違法なたばこ製品の製造および流通等に関する情報交換を行い、不法取引の減少に対する取り組みを支援。 また、毎年の暴対法についての社内講習の実施と、新規取引先契約時の暴対法に関する法令順守文言を含んだ覚書の取得。	ゴール	指標
				16.1、16.3、16.5	17.17			ゴール16	社会(2)①
								ターゲット	具体的な取組
							16.4	社会(2)ウ	
12	自社のSDGsの取組みをマネジメントする担当者や担当部署を設置し、CSV(※)などを適切に推進すると共に、災害時等の事業の継続や事業承継など持続可能な事業経営に取り組んでいる。	経済・社会 (持続可能性)					JTグループが持続的に成長していくためには、経営理念である4Sモデルに基づく事業活動を通じて、持続的な社会の発展に貢献していくことが必要不可欠。未来のあるべき姿を見据え、グループ全体でサステナビリティ経営を推進する役割としてCSOを設置。 グループ全体のサステナビリティに関する取り組みを更に進化させるべく、サステナビリティマネジメント部を設置。	ゴール	指標
				11.b	12.6	13.1		ゴール17	社会(4)③
								ターゲット	具体的な取組
							17.17	経済(4)ア	

※CSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)
企業が社会課題に取り組み、社会に対して価値を創造することでビジネス(経済的な価値)を創出すること。

SDGs 達成に向けた宣言書

宣言日 令和 3 年 9 月 30 日

団体名 日本たばこ産業株式会社 北九州支店

私たちは、SDGs の内容を理解し、SDGs の達成に向けた方針及び取組を以下のとおり宣言します。

◆ SDGs 達成に向けた取組方針等

JTグループでは「人権の尊重」「環境負荷の軽減と社会的責任の発揮」「良質なガバナンスと事業規範の実行」これら3つの基盤をもとにSDGs 目標達成に取り組んでいます。

JT北九州支店は、「11.住み続けられるまちづくりを」・「15.陸の豊かさを守ろう」・「17.パートナーシップで目標を達成しよう」を中心に目標達成に取り組んで参ります。

◆ SDGs 達成に向けた重点的な取組

達成を目指す分野に「○」	SDGs 達成に向けた重点的な取組	指標 (KPI) ・ 目標値		最も関連性のある「北九州市SDGs 未来都市計画」の指標や取組 ※どちらか一方のみの記載で構いません。
		※目標値は、いずれかの目標年で設定してください。		
経済	「北九州のまちを美しく！プロジェクト」を実施。 「ひろう」という体験を通じて、「すてない」気持ちを育てたい。 各SDGs Club員がおこなっている清掃活動を、ごみ拾いSNS「ピリカ」を活用しつ繋げることで、Club員同士の連携促進を図る。	指標 (KPI)	参加団体 参加人数	指標
社会		目標値		具体的な取組
環境 ○		2023年 (その他の場合) ()年	2023年迄 参加団体:20団体以上 参加人数:300名以上	
経済	格差是正・環境保全・災害分野の3領域の社会課題解決に取り組む北九州市の企業/団体との連携構築。 対象団体・企業との取り組みを通して、上記3領域における、課題解決を目指す。 * SDGs貢献PJT (JT助成制度) の活用も検討	指標 (KPI)	3分野における課題解決数	指標
社会 ○		目標値		社会 (2) ①
環境		2030年 (その他の場合) ()年	2030年迄 3つの課題解消	具体的な取組
経済 ○	北九州市における、吸う人も吸わない人もここちよい世の中・共存社会の実現。 その為に、マナー啓発・清掃活動・喫煙所整備の実施・RRP(Reduced-Risk Products ※喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品)に伴うたばこメーカーとしての責務を全うする。	指標 (KPI)	分煙施設の整備	指標
社会 ○		目標値		経済 (3) ①
環境 ○		2030年 (その他の場合) ()年	喫煙所等 7か所	具体的な取組

記載について

- ・ 「SDGs 達成に向けた重点的な取組」は、3つまでご記入できます。
- ・ 必ず全ての分野 (経済・社会・環境) の達成を宣言してください。
(1つの取組みで3つの分野を達成しても、複数の取組みで3つの分野を達成しても構いません)
- ・ 指標 (KPI) は、原則として数値目標を記載してください。

地域課題への取組み

団 体 名 日本たばこ産業株式会社 北九州支店

私たちは、地域課題の解決を通じてSDGsを達成するため、北九州市の取組みに参加しています（今後、参加します）。

取組名	具体的な取組内容
2 【SDGsクラブプロジェクト】 北九州のまちを美しく！プロジェクト	「ひろう」という体験を通じて、「すてない」気持ちを育てるため、清掃活動を実施。ごみひろいアプリ「ピリカ」を活用したクラブ会員の連携促進。
99 その他（市と連携した取組み）	夢現∞プロジェクトに参加し、参加者のSDGs探究授業をサポート。
99 その他（市と連携した取組み）	西日本工業大学へJTのSDGs取組みについて、出前授業を実施。
99 その他（市と連携した取組み）	SDGs貢献プロジェクト（JT助成制度）を通して、「NPO法人わくわーく」の格差是正の事業に助成を実施。

記載について

- ・参考「企業等が参画可能な取組一覧」の中から、現在取り組んでいるもの（今後取り組むもの）を少なくとも一つ選択し、具体的な取組内容を記載して下さい。
- ・これから取組みを始める場合は、選択した取り組みの担当部署に連絡をし、所定の手続きを済ませた上で本書を提出して下さい。
- ・参考「企業等が参画可能な取組一覧」以外で、貴団体が自主的に行っている取組みについても、併せて記載いただいても構いません。